

次世代に夢をつなぐ、
ブロッコリー栽培

大山町

林原 博寿

1 はじめに

私は、ブロッコリーの栽培を主に 集落の農地を引き受け、規模拡大に取り組み、妻、父、母とともに4人で家族経営を行ってきました。しかし、両親の高齢化に伴い、雇用を入れての経営を検討し、現在では、妻と雇用1名で年間約7.5haのブロッコリーを栽培しています。また、次の世代に向け、我が家では役割分担を明確に、平成22年に夫婦で家族経営協定を結び、経営の発展を図ってきたところであります。

現在、長男には将来の就農に向けて販売力を身につけて欲しいと願い、地元の青果市場へ就職し、勉強をしてもらっていますが、数年後には戻ってきて一緒にブロッコリー栽培をしていきたいと思っています。そのために平成25年から、JA 鳥取西部が取り組んでいるがんばる地域プランによる機械整備を活用して、効率的なブロッコリー栽培で今後も規模を拡大できる継続した経営を目指して取り組んでいるところです。

また、息子へのバトンタッチの準備を進めていく中で、産地を維持していくには新しい生産者の育成も重要と考え、次世代に夢をつなげるべく、技術の伝承ができればと産地を担ってくれることを期待して、これまでに4名の就農研修生の受け入れも行ってきました。

今後も産地の高齢化が進んでいきますが、皆で産地を守り、全国の産地間競争にも負けない産地として、さらに大山ブロッコリーを伸ばすために微力ながら頑張りたいと思います。

2 現在の経営状況

① 労働力

	年齢(才)	年間労働日数
本人		300
妻		280
雇用	1人	120

② 栽培面積

初夏穫りブロッコリー	2.5ha
秋冬穫りブロッコリー	5.0ha
ハウスブロッコリー	7.2a
水稲	55.0a

	水田	畑
自作地	68a	103a
借地	475a	47a

③主な機械施設の装備

機械・装備	台数	導入年次
トラクター 21ps(中古)	1	H25
トラクター 30ps	1	H16
乗用管理機	1	H18
動力散布機	2	H10, 18
フレールモア	1	H23
管理機	1	H1
軽トラ	2	H19, 25
自走式ハイクリブーム	1	H25
ブロードキャスト	1	H25

3 将来の農業経営の取り組み

これまで耕作放棄地を出さないよう 集落の農地集積に努めてきたが、これ以上集落内での大幅な面積増は望めないため、現状を維持しながら、他集落の畑地を借りて規模をひろげ、機械導入による作業の効率化を考え、品質と収量の向上を目指す。さらに、息子の就農後は息子の経験を活かし販路を拡大。JA 出荷と直販を行い、所得向上を目指す。

① 労働力(日数)計画

	H26	H27	H28	H29
本人	250	250	250	200
妻	200	200	200	150
雇用	120	120	120	100

② 作付面積と生産計画

		H25(実績)	H26	H27	H28	H29
初夏ブロッコリー	面積(a)	200	240	250	250	250
	10a当り 収量	185cs	160cs	160cs	160cs	160cs
秋冬ブロッコリー	面積(a)	500	500	550	550	600
	10a当り 収量	125cs	160cs	160cs	160cs	160cs
ハウスブロッコリー	面積(a)	7	7	7	7	7
	10a当り 収量	139cs	150cs	150cs	150cs	150cs
水稲	面積(a)	55	55	55	55	55
	10a当り 収量	480kg	480kg	480kg	480kg	480kg

4 課題

- ① 転作によるほ場の集団化によって 集落の農地集積に努めてきたが、水田はリスクが高く排水等も悪いため湿害回避を考え、他集落の畑でもブロッコリー栽培を行うようになった。これによってほ場が広範囲に分散しており、移動の時間を短縮し、効率よく作業を行う必要がある。
- ② 現在使用しているトラクターは、ブロッコリー6ha(初夏 1.5ha、秋冬 4.5ha)の作業を目標に導入したが、現在はその頃よりも栽培面積が増え、今後も面積拡大を考えていくと、作業効率を上げるために規模に合わせた馬力のトラクターによって作業を行う必要がある。
- ③ 畜産農家との契約で飼料栽培をしており、刈取り時には畜産農家の大型機械がほ場に入る。また、地力増進のために堆肥散布を畜産農家に依頼すると散布にも大型機械が使用される。このため、ほ場が鎮圧され、堅くなるので、これを碎土、整地するには現在のトラクターでは耕耘回数を多くしないといけない。また、耕耘回数を増やしても深耕による反転が難しい。
- ④ 12月や春どりのブロッコリーでは湿害や低温によって、収穫時期の遅れや品質の低下が問題となっており、部会として安定して収穫するための排水対策や品種検討をしている。この問題を解決するために、畝形成やマルチによる地温確保など、作型にあわせた工夫で安定した収穫をめざす必要がある。

5 課題を達成するための改善対策

- ①トラクターの導入による作業効率の向上
 - ・ 現在所有しているトラクターは、それぞれハウス専用と除草・フレールモアによるすき込み・肥料散布専用として使用する。
 - ・ 圃場が海沿いから山側まで分散しており、ハイスピードを導入することで移動の時間を短縮し、効率よく作業を行うことができる。
 - ・ 馬力の大きい耕耘専用のトラクターを導入することにより、耕耘回数を減らし、効率よく作業をすることができる。また、鎮圧された圃場でも深耕ができるようになる。
 - ・ キャビン付きにすることにより、夏場の猛暑での長時間に及ぶ耕運作業による疲労を大幅に軽減できる。
- ②がんばる地域プラン支援事業を活用した省力化と品質向上への取り組み
グループで話し合い、作業時期が限られ、作業の省力化、効率化によって時間が短縮でき、共同で所有してもメリットがある機械については、がんばる地域プラン

を活用して導入することとした。これによって、以下のような効果が期待できる。また、個人導入に比べ経費を削減することもできる。

- ・ 自走式ハイクリブームの導入は、薬剤散布の際のホースを引っ張る作業が省力でき、一人での作業が可能となる。
- ・ ブロードキャスターの導入は、肥料散布にかかる時間を大幅に短縮することができる。
- ・ 畝立てマルチャーの導入は、ブロッコリー定植時の湿害回避ができるようになる。また、マルチを張ることもできるため、低温時の保温対策が可能となり、春や秋の定植後の生育促進ができ、低温による生育停滞を解消できるので継続した収穫が目指せる。以上のことから、品質、収量の向上に結びつく。

7 具体的な取り組み

	H25	H26	H27	H28	備考
トラクター 40ps		○			事業費 5,725,000 円 補助額 2,86,2500 円
自走式ハイクリブーム	◎				がんばる 地域プラン 支援事業を 活用
ブロードキャスタ	◎				
二畝マルチャー		◎			

トラクター導入の自己負担部分は、自己資金で対応する。

○: がんばる農家プラン支援事業活用

◎: がんばる地域プラン支援事業活用